



金子選手のバッティング指導に、真剣に見入る子どもたち

実技を交えたプロの指導に熱視線

益城町少年野球教室開催

益城町少年野球教室が12月28日、約100人の野球少年が参加して町民グラウンドで開かれました。

「町からプロ選手の輩出」をテーマに町体育協会が毎年行っているこの教室。福岡ソフトバンクホークスの金子圭輔^{かね こ けいすけ}内野手など4人による実技を交えながらの指導に、子どもたちは熱い視線を送っていました。

内野手の柏原佑哉^{かしわばら ゆうや}くん(東無田)は、「セカンドベースへの入り方がよくわかった。バッティングは上から打つように教わった」と嬉しそうに話しました。

幸多き新年を祈って門松を設置

町商工会マシキロテックスが奉仕活動

年の瀬迫る12月27日、マシキロテックス(町商工会工業部協会、西田隆一^{にしだ たかいち}会長)の会員たちが役場玄関に門松を設置しました。

同協会が地域活性化に寄与するため毎年行っているこの奉仕活動も今回で10回目。さすがに技術のプロとあって製作はお手のもので、竹材を扱う会員が提供した材料で立派な門松を完成させました。

西田会長は「町民のみなさんに気持ち良く新年を迎えていただきたい」と爽やかな表情で話しました。



手際よい作業で門松を作る会員のみなさん



厄払いの神事を終え、籠に乗せられてえんま堂に戻る末松さん

籠に担いでみんなで厄を担う

寺迫地区で伝統の「厄入り担い会」

寺迫地区で1月10日、厄入りする男性を籠に乗せて、「えんま堂」から木山神宮までを担いで往復する「厄入り担い会」が行われました。

今年の“乗客”は末松敦幸^{すえまつ のぶゆき}さん。同地区の仲間たちが、籠を途中で地面に下してはならないという習わしを守りながら、交代で約1.2^{キロ}の道のりを運びました。

末松さんは、「緊張と不安の中で、今まで味わったことのない乗り心地でした。担いでくれた地域のみんなに感謝の気持ちでいっぱいです」と話しました。

Best Smile
今月のベスト笑顔

